

# 平成27年度第1回 学生モニター会議開催報告

開催日程：平成27年10月16日（金）

見学会（ドミトリー3及び伊都協奏館 希望者のみ6名参加）16:00~16:55

学生モニター会議（ドミトリー3 多目的室）17:00~19:30

参加者：丸野理事・副学長、井上副理事（コーディネーター）

学生モニター13名、ドミトリーリーダー5名、教育改革企画支援室員6名

## 1. 目的：

九州大学における教育、学生生活相談、学生支援等の実施にあたり、全学的な観点に立った学生の建設的な意見、要望等を参考とし、改善につなげる。

## 2. テーマ：

（テーマ1）留学生・日本人学生間の更なるコミュニケーション促進について～国際学生寮の事例から考える～

（テーマ2）大学の教育への期待について

## 3. 概要：

### ◆テーマ1

標記テーマについて次の①～③の順に進行し、意見交換を行った。

#### ①事例発表

伊都協奏館及びドミトリー3での交流状況や課題について、各ドミトリーリーダーより、事例発表を行った。

（事例発表の概要）

#### ○伊都協奏館について

- ・ ドミトリーリーダーを中心に毎月1回のペースで交流イベントを実施。交流イベント以外にも週に1回コーヒーアワー（ドミトリーリーダーの相談窓口時間）を設け、交流の起点としている。
- ・ 学期開始時は良いが、時間が経過するにつれ参加者が固定化するため、寮全体への波及は途上段階である。
- ・ ドミトリーリーダーとしても負担が重く、授業、研究、アルバイトの傍らにボランティアで対応しているような状況にある。

#### ○ドミトリー3について

- ・ ユニット（4名1組）間での交流がほとんどなく、コーヒーアワーでの交流が中心となっている。
- ・ 交流イベントに活用できる予算が少なく、場合によっては参加者から参加費を徴収している。

- ・ 留学生の入居率が低い。
- ・ 他の入居者との交流意識の低い学生が入居している。



## ②グループワーク

事例発表の中で提示されたことや自身の国際交流の経験を元に、留学生・日本人学生間のコミュニケーションを促進するためのアイデアをグループごとにディカッションを行った。

## ③グループ発表

学生を3グループに分け、交流促進のアイデアをグループごとに整理し、発表を行った。  
(意見)

- ・ 寮を設置した大学の目的と寮に入る学生の意図が合致していない。国際交流を目的としているのなら入寮時に面接を実施することも必要である。
- ・ 専門家（キャンパスライフ支援センター等のカウンセラー）と連携できれば、ドミトリーリーダーの業務も負担軽減できる。
- ・ パーティーなどの交流イベントだけではなく、いろいろな学部の学生が入居しているので「研究」をテーマとする交流イベントの実施などはどうか。
- ・ 移転過渡期で、ドミトリーは工学系・理学系学生の入居に偏りがちである。多様性を高めるのであればドミトリーから他キャンパスにも通学できるように、朝・夕方にキャンパス間シャトルバスを増便する必要がある。
- ・ 学内LANのドミトリー内導入など環境面の充実を図る。
- ・ ドミトリーリーダーを増員してほしい。
- ・ ドミトリーリーダーについて報酬を伴うアルバイトのような形態にできないか。
- ・ 共用スペースの利用の規則を緩和し、いつでも利用できるようにしてほしい。
- ・ ドミトリー間の転居を可能にしてほしい。(流動性)



## ◆テーマ2

標記テーマに関して事前に聴取した学生からの意見・要望に基づき、教員から次のような助言・意見があった。

### 【学生への助言】

- ・ 学生には、大学で与えられる教育だけでなく、自ら学ぶ学習はどうあるべきかについても今後考えてほしい。
- ・ 基幹教育科目・専門教育科目を問わず、学生の心構えとして、自らの疑問を大切にしながら学びを進めていくことが肝要である。
- ・ 学部をまたぐ授業、寮やサークルなどグローバルで幅広い環境の要素は大学内にあるので、学生もうまく活用できるとよい。
- ・ 社会に出る前の小さなコミュニティともいえる大学で、寮の交流イベントなどを活用し
- ・ コミュニケーション能力を身に付け、大学全体を活気づけられるとよい。

### 【その他】

- ・ 本学の教育内容を学外へアピールする場として、出前授業などが活用できる。
- ・ 学年が上がり専門化が進むほど、幅広い分野への学修ニーズが高まる傾向にあるので、大学としてこれに対応するカリキュラムの検討が必要ではないか。
- ・ 学生からの感性を磨く芸術系の科目増設の要望・重要性については理解できる。

## 4. 今後の活用：

本会議で挙げた意見等については精査し、関係委員会・部署等で検討の上、関係事項の今後の改善に活用していくこととなった。